



## 秋彼岸向け小菊安定出荷

# 品種ごとに適期消灯 十分な切り花長確保

近年の夏秋小菊栽培では、夏場の高温が影響して開花が不安定となり需要期に計画出

表 消灯日の違いが切り花品質に及ぼす影響

品種名 (花色)	消灯日 (月/日)	収穫期間 (月/日)	到花 <sup>z</sup> 日数	切り花長 (cm)	消灯 <sup>y</sup> 時期
精かのか (白)	7/15	9/7~11	56	92.2	△
	7/20	9/10~16	55	109.1	○
	7/25	9/12~17	52	105.6	○
精はぎの (黄)	7/15	9/11~16	60	85.8	○
	7/20	9/14~18	58	86.8	○
	7/25	9/15~18	53	99.5	○
精はんな (赤)	7/15	8/27~9/4	46	82.9	×
	7/20	9/1~10	47	89.5	△
	7/25	9/11~15	49	82.6	○

z) 収穫のピークに基準を算出

y) ○: 適する、△: やや適する、×: 適さない

に、品種ごとに適切な時期に消灯することで9月彼岸需要期の安定出荷が期待できます。  
(長崎県農林技術開発センター―農産園芸研究部門花き・生物工学研究室主任 中村優人)

荷することが難しくなっています。そこで、本県の主力品種として栽培されている「精かのか」「精はぎの」「精はんな」について、9月彼岸の需要期に出荷が可能となる消灯日と切り花品質を調査しました。

試験は消灯日を7月15、20、25日の3区に分けて実施しました。各品種とも5月16日にセルトレーに挿し穂し、同月30日に本圃(ほんぼ)へ定植、6月6日に摘心、同月26日に整枝しました。定植から消灯までは蛍光灯で5時間(午後10時~午前3時)の暗期中断をしました。

その結果、9月彼岸需要期に出荷できる消灯日は「精かのか」は7月20~25日、「精はぎの」は7月15~25日、「精はんな」は7月25日でした。いずれの消灯日でも出荷に十分な切り花長を確保することができました。このように、